



フィリピン

トゥバタハリーフ ダイブクルーズ

Surprise!! TUBBATAHA Dive Cruise

トゥバタハリーフの正式名称は、トゥバタハ岩礁海洋公園。

1993年にフィリピンで最初の世界遺産に登録されたこの海域は、

数々のダイブスポットを擁するフィリピンのなかでも

古くからベスト&ホットな

ダイビングポイントとして人気が高いエリア。

季節風の関係で、このトゥバタハリーフで

ダイビングができるのは3月中旬から

6月中旬の3ヶ月間。

また、スルー海のほぼ中央に位置するため、

ここを潜る唯一の手段はダイブクルーズとなる。

数ヶ月後にシーズンを迎える

トゥバタハリーフ・ダイブクルーズの魅力を紹介する。

GW期間限定
世界遺産クルーズ

Photo & Text Yasuki Kagii
Special thanks World Tour Planners

フィリピン トゥバタハリーフ・ダイブクルーズ 
www.web-lue.com

Web-lue 2005-2006 Winter

 Information Link  情報HPへジャンプ
<http://www.wtp.co.jp/dive-safari/sulu/index.html>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



ジンベイザメに出会える幸せ

Surprise!!

TUBBATAHA Dive Cruise

何度も旋回を繰り返しては、ダイバーの輪のなかを泳ぐジンベイザメ。夢のような出会いだった

トゥバタハリーフでの3日目。ギンガメアジやバラクーダの群れに遭遇したが、出会えた大物と呼ばれる魚は遠くにちらりと見えたマンタだけ。1日4本、ほぼ全てのダイビングがドロップオフでのダイビング。正直、少し単調だったクルーズダイブを一変させる出来事が起きた。

グループでダイビング中、沖合いのブルーウォーターに目を向けると、ギンガメアジの群れが見えた。少しずつその群れに近づきながら、棚の上から離れると、突然、大きな影が、その銀鱗の群れを弾き飛ばした。それは、数匹のロウニンアジを引き連れたジンベイザメの登場だった。あまりにも突然で出来事に、少し戸惑いも覚えたが、ありったけの力でフィンキックし、ジンベイザメのそばを平行して泳ぎ始めた。でも一緒に

泳げるのはほんの少しの時間。数カット撮影した後、あっさりその後ろ姿を見送る。「遅れてやって来た他のゲストダイバーは見れたのだろうか？」と、そんなことを心配していると、青い水の先でジンベイザメが振り返り、こちらに引き返して来る姿が見えた。それはまるで「忘れ物でもしたの？」と問い掛けたくなるような行動だった。そして、ジンベイザメはみんなの間に遠慮なく割り込んで来ては、ブルーウォーターの先に消えて行く、かと思うと、再度ターンしてはみんなの輪のなかに戻ってくる。ちょうどダイブタイムで20分過ぎの遭遇だった。それから、エキジットするまでの約40分間。ジンベイザメは、まるで「一緒に遊んでよ」、と言わんばかり私達の周りを泳ぎ続けた。私はこれまでに、ダイビングガイド、そして水中カメラマ

ンとして世界中の海でジンベイザメと泳ぐという幸運を何度も体験しているが、このような騒動？は初めだった。これは決してトゥバタハリーフでの日常ではない。しかし、こんな素晴らしい出会いがあったことも事実で、沖合い180km先に広がる広大な世界遺産リーフでは、やはり想像を越えた出来事が待っていた。

今回、ジンベイザメと一緒に泳いだゲストダイバーは、「バイバイと手を振ったので、そんなに直ぐに帰って来なくていいのに…」とか、「ジンベイザメも去り際が肝心。誰も追わなくなるようになったら、もう終わり。」など辛辣な評価を受けていた……。冗談も出てくるほど、ゲストダイバーは、ジンベイザメとの出会いを満喫していた。この1ダイブはトゥバタハクルーズの最高の思い出となった。



Surprise!!
TUBBATAHA
Dive Cruise



左上)まるで雲のように青い海に浮かんでいたギンガメアジ 左下)カメラの前でポーズを決めてくれたタイマイ 中)ドロップオフ沿いにまるで滝のよう流れ落ちたギンガメアジの群れ

クルーズで移動中、ジュゴンが水面に現れた



パンチのある群れもの & 大物との遭遇

トゥバタハリーフでは、様々な魚の群れに会うことができる。今回、出会ったなかでも印象的だったのは、ギンガメアジの大きな群れ。南トゥバタハリーフにあるデルサンレックでは、浅いサンゴ礁の棚から水深50mの海底まで、川のように流れ落ちるギンガメアジ大集団の群れに遭遇した。その流れは約10秒間続いたが、その間は全く途切れることなく、私たちすべてのゲストダイバーを圧倒した。その後、同じリーフの上を散策していると、また大きなギンガメアジの群れに出会った。今度は大きな球体で、棚の上に浮かんでいた。静かに近づくと、その群れのなかにパッキリと飲み込まれました。先に出会った川の流れのようなギンガメアジといい、この球体のギンガメアジといい、いったい、このポイントには、どれほど多くのギンガ

メアジがいるのか。想像するだけでも、そのスケールの大きさに興奮してくる。北トゥバタハリーフのマラヤンレックでは、ギンガメアジの群れやイトマキエイ、イトヒキアジ、ブルースポットスティングレイやマーブルレイなどの大物 & 面白い生物との遭遇があった。そしてバラクーダの群れを狙って再度、エントリーした時も嬉しい出会いがあった。それはダイビング中盤でバンドウイルカが沖に現れたのだ。ゲストダイバーとイルカまでの距離は様々だったが、全員で見ることができた。数日前に出会ったジンバイザメのイメージがあったので、みんなは「また何度でも帰ってきてくれるのではないかと」と期待したが、戻ってきてくれたのは一度だけ。それでも水中でイルカに会えた幸せをみんなで共有できた。



Surprise!!
TUBBATAHA Dive Cruise

フィリピンで発見されているサンゴ全種のうち 90%である379種がトゥバタハリーフにある。



浅瀬に向かうと、白い砂地と美しいサンゴ礁が迎えてくれる癒しの空間

トゥバタハ岩礁海中公園(正式名称)は広大なサンゴ礁からなる聖域(サンクチュアリ)。1993年にフィリピンではじめて、ユネスコの世界自然遺産として登録された。その登録基準のひとつとなったのが、スル海全域の生態系にサンゴの幼生が繁殖している、というその特有の状態にあるということ。サンゴの幼生が繁殖すると魚類種が増加する、特にトゥバタハリーフではアジ、マグロ、カマス、サメなどの外洋性の魚類が多様性に富んでいる。また、危機に瀕しているウミガメにとって重要な海草帯が広がる浅い礁湖などがあり、原生に近いサンゴ礁の良い例があること。またサンゴ

礁が隆起した島は鳥類やカメのすみかとなっていることなど。このような事項が登録基準であり、サンゴ礁の重要度がとても重視されている。

実際にトゥバタハリーフの海中で見るサンゴ礁は、実に豊かで、健全な生態系の礎であることを教えてくれる。もちろん、トゥバタハ周辺に存在している全てのリーフが手付かずであるというわけではないが、ほとんどの浅瀬には様々な種類のサンゴが広がり、そのフォーメーションは見ているだけでも飽きることはない。サンゴ礁の美しさに特に心奪われたポイントは、北トゥバタハリーフのBird Island(バード アイランド)。トッピー

ーフには白い砂地が広がり、そこにサンゴの根がいくつも点在する。その空間の持つ海の美しさは、これまで私がダイビングした中でもベスト3に入る美しさだった。また、南トゥバタハリーフのSouth Islet(サウスアイスレット)。トッピーには、短い枝サンゴが一面に広がり、太陽の光が、まるでかっ「さざ波」のようにその表面を撫ぜる。豊かなサンゴ礁だから、得ることのできる癒しのフィーリングを満喫することができた。

左上)あまりにも豊かなサンゴ礁を前に言葉を失う 右)サンゴに棲む魚たちの写真を撮影したくても、着底する場所がないほどサンゴの森は続く



もちろん、アジアの海ならではの原色の世界も広がっている。特に潮通しの良いリーフでは、大きくて真っ赤な、または真っ黄色なイソバナが連立し、ウミシダ、ソフトコーラルといったカラフルな生物がリーフを彩っている。北トゥバタハリーフの最北端のポイント・Washing Machine(ウォッシング マシン)は、洗濯機のように潮の流れが複雑な時もあるということでエントリーした。しかし潮の流れも弱く、静かなダイビングとなり、拍子抜けしたが、エントリーの後、水深を下げていると、いくつかのオーバーハングがあり、短い

アジアの海ならではの 豊かなソフトコーラル & カラフルな景観

Surprise!!
TUBBATAHA
Dive Cruise



左)ドロップオフに乱れ咲く、カラフルで豊かな腔腸類。その姿態は妖艶で魅了されずにはいられない
右上)カラフルな景観にトリビカルフィッシュ。元気な海が広がっている
右中)まるで宇宙からの使者のようなカイメンの仲間 右下)よく見るとマクロの世界も魅力で溢れている

黄色と白色のソフトコーラルが群生していた。これは他のポイントでは見られなかった景観。広いトゥバタハリーフでは、ポイントが変わるだけで、全然違った特徴に気付く。南トゥバタハリーフのSouth Islet(サウス アイスレット)は、深場の壁際に群生する腔腸類がとにかく美しい。あまり深場でのダイビングを好まない私が思わず、深度を下げたポイント。グループの移動が早いのでそれほど、じっくりは撮影できなかったが、どこを見てもボサボサ生えるウチワ、ヤギ、ソフトコーラルは撮影に要するフィルムが何本あっても足りない、実感していた。カラフルで元気な色の景観についつい深度を忘れることも…しばしば…。深度制限があまりうるさくないトゥバタハの海。自己管理をしっかりして気を付けて楽しんで欲しい。



印象的な真っ赤なイソバナと様々なチヨウチヨウウオの群れ



上) ナポレオンなどの大型種もふつうに見られる 左) ブルーウォーターではイソマグロの姿も時折見られる



豊かなサンゴ礁からなるドロップオフでのダイビングが多くなるトゥバタハリーフ。いつ現れるかわからない大物に常に注意を払ってなくてはならない。しかし1日、4~5本のダイビングスタイル。毎回、大物や群れものに会えるわけでもなく、少し視点を変えて、自分なりの発見を楽しむのが、トゥバタハリーフをより満喫する方法。約400種もの魚類が生息しているので、他の海ではあまりお見かけしない生物やドロップオフの壁沿いにあるいくつかのオーバーハングの下に隠れている小さな生物など、見所はたくさん。クダゴンベやウミウシなどの人気種やオオテンハゴイ、スミレナガハナダイなどのハナダイ類など、またリーフの上ではネムリブカなどのサメの仲間。そして中層では、ナポレオンやイソマグロなども普通に見られる。

Surprise!!
TUBBATAHA Dive Cruise

トゥバタハリーフでは脇役？
人気の魚とマクロの生物



遭遇率の高いネムリブカ。他にメジロザメなどに会える



上) 砂地で見つけたブルースポット スティングレイ 右下) 小さなお花のような生物を見つけた



左上) 色鮮やかなウメイロモドキ 左下) 岩場の亀裂でいたロフスター 右) ツラシの仲間もたくさん見つかる 右) クリーニングを受けていたオオテンハナダイ





ジンベイザメと出会えた日、夕焼け色に染まる海を眺めながらみんなで祝福の乾杯！

Surprise!!
TUBBATAHA Dive Cruise



左)最後に安全停止をみんなで行う。ブルーの海で気分は空に浮いているよう
上)本船からスピードボートに乗り移ってダイビングへGO！



上)フィリピンの代表的なビール・サムニタルを食事はずべてホリユム漁師のフュンフェガ式

トゥバタハ
クルーズの魅力

クルーズはトゥバタハリーフの洋上で、360° 海に囲まれた環境。いつでも海を身近に感じることができる。トゥバタハクルーズも「食べて、潜って、眠る」が毎日の基本パターンである。ダイビングスタイルは1日4本ペースでナイトダイビングはリクエストベース。早朝5時半～6時の間に起床。6時過ぎにブリーフィングを終え、朝早く海にエントリーするトゥバタハダイブクルーズでは、早朝ならではの、光景を楽しむことができる。例えば、ハナム口の大きな群れを狙い追うかけるカスマアジやロウニンアジの編隊や、まだ寝ぼけているのか？フレンドリーなタイマイ(カメ)と

の遭遇など、船上の静か朝の始まりとは、また違い、まだ太陽の優しい光が包む水色の海は実に活気に溢れている。そして日中の2ダイブは大物&群れを求めて美しいサンゴ礁のリーフで潜る。4本目は夕方近くのダイビングとなり、水中はやや暗くなるが、エキジット寸前では浅瀬の棚でシマハギが婚姻色になり、放精放卵を繰り返すなど、様々なお魚たちの興味深いシーンに立ち会える。いつでも海が傍にあるクルーズでは、船上からイルカやカジキなども見かけることもある。

そして、クルーズではダイビングに次いで大切な「食事」。地元の素材を使用したシーフードや、お肉料理、パスタ、サラダ、それに南国のフルーツなどクルーズの食事はボリュームあり、とても美味しい。味付けも日本人好みで、香草などを使用したくせのある料理はない。ダイビング後は、地元のビールで乾杯、これがまた最高だ。

また、クルーズの良いところは、同じ船に乗船したゲストがすぐに仲良くなれること。人気のあるトゥバタハ・クルーズでは個人で参加する人も多く、様々な海を経験しているダイバーも多いので、海の情報交換を行ったり、また今後のダイビングトリップのバディとの出会い、となることもある。期間限定のスペシャルトリップであるトゥバタハ・クルーズは好奇心旺盛&アクティブダイバーがたくさん集まって来る。



毎日、違った色に染まる夕焼け



快食、快眠、
快便、快潜の日々

川崎市のM・Aさん

世界遺産の海、トゥバタハ。雑誌には良いことしか書いてないけど実際行った事がある人がいないので、どんな海か自分で見に来ました。どこまでもどこまでも泳いでもとてもキレイなサンゴが続いていて、お魚ものんびりしてて写真撮影がし易かったのがよかったです。ジンベイザメ、水中イルカ、ギンガメの滝下りが印象的、小魚もいっぱい可愛かったです。ご飯はアジアテイストではなく、日本人に普通に受け入れ易い味で美味しかったです。シャワーで出が悪かったのと、海況のせいか、船のつくりのせいか、船の揺れが大きかったのが気になりましたが、毎日、快食、快眠、快便、快潜の日々でした。



あっという間の
10日間！

牛山 桂
(うしやまかつら) さん

どこまでも続くサンゴ畑。夢のようなジンベエとの40分近いランデブー……。残念ながら期待していたギンガメ+バラクーダの大群には恵まれなかったけれどフィリピン人スタッフの対応の良さと、バラエティに富んだ食事、そして何よりも少人数クルーズならではの和気あいあいとした雰囲気、やすさん(鍵井カメラマン)の××トークも盛り上がり、あっという間の楽しい10日間でした。ただ一つ残念だったのはガイドのヨーロッパ人2人がジンベイザメを触っていたこと……。あれはNGですね。その後のクルーズのことも考えて注意できなかった自分にも反省です。



今回の旅行は
二重マル！

大久保 聡
(おおくぼ さとし) さん

珊瑚も海もキレイだったし、ジンベザメ&イルカも見られてとっても良かった。ただ期待のハンマー、バラクーダの群れには出会えず残念……。お船のほうはスタッフもとても親切でしたし、ご飯もとても美味でした。(トイレ、シャワーの数が少ないのがマイナスポイントでしたが…)ゲストの皆さんも面白い方ばかりでしたので、とても楽しめました。今回のダイビング旅行は◎です！！



どんどん贅沢に
なっています！

小黑 まゆみ
(おぐろまゆみ) さん

ジンベイザメは飽きるほど一緒に遊んでくれましたが、イルカは通り過ぎただけだったので、もう少し数が多かったら良かったです。1頭でももちろん嬉しいのですが、どんどん贅沢になっていきます……。タンクのエアーが臭かったけど、ジンベイザメが出てきたりすると、そんなことも忘れさせてくれました。船の揺れが大きかったので、上のサンデッキで寛ぐことがあまりできませんでした。少人数のクルーズだったので、みんな、直ぐに打ち解けて良かったです。

皆さん、クルーズはいかがでしたか？ トゥバタハクルーズに参加したゲストの皆さんの声です。 (タルーシー号・4月30日~5月7日2005年)

(五十音順)

Surprise!!
TUBBATAHA
Dive Cruise



人生万事
塞翁が馬！？

金島 春子
(かねしま はるこ) さん

初日、船の故障で出航できないと聞いたときには、「うう、やっぱり、これがフィリピンよね…」と思ったけど、総日程10日間という今回の旅ならではの、またゲストも皆旅慣れた人ばかりだったせいか、イライラしたり、怒る様子もなく、「ま〜、しょうがないか。明日には直ることを祈りましょ」的おらかさで結構余裕の様子でした。しかし、人生万事塞翁が馬、おかげで予定にはない、マッサージの出張サービスを頼むことができ、港に停泊する船の中で予定外の極楽を味わう一場面も。海は、噂に

たがわぬダイナミックさでした。累々どこまでも続く珊瑚の美しさは想像以上、ジンベイザメ(水中×1、ポートから×1)・イルカ(水中)・ギンガメ・船からはカジキとジュゴンを見てしまった私としては、今後そんじょそらのdivingでは満足できなくなるのが怖いんです。船の小ささ、揺れはやむを得ず、でもその苦しさもカバーしてくれる？海の良さと温かいスタッフたちでした。初日にイキナリ、ガイドのLoui○君がポートのへさきで立ち○オンをしていたのを目撃してしまったのと、朝、どなたかのトイレの直後、(どうやらダイレクトに海に流しているらしく) うっかり水面に ウン○の現物が漂っているのを見てしまったことだけが悔やまれます。ま、クルーズってそんなものよなってことで……。負けなぞ！(かなりショックだったけど……) でもまたクルーズに乗ると思います。ピバ！トゥバタハ！



とても貴重な
体験でした

鳥田 収
(しまだおさむ) さん

最初にボロ船だと聞いていたのですが、思いの外、設備が整っていたのでビックリしました。ご飯は総じて美味かった。でもブリーフィングはいい加減だった。ガイドが毎ダイビングごと、深い場所に行っていたので、私としては、ついていくことができなかつた。ダイビングでは、やっぱりジンベイザメとあれほど長く泳げるというのは、これまででなかったし、きっとこれからもないでしょう。とても貴重な体験でした。

ダイビングの合間、みんなで撮影したデジカメ画像を眺めながら談笑





サンゴ! サンゴ!!!
サンゴ!!!!

関 英子
(せき えいこ) さん

サンゴ、サンゴ、サンゴ&サンゴ、とさすが世界遺産でした。写真をとりにくても、指示棒1本つく隙間がないほど密集していました。種類も沢山で、堪能できました。群れは少なかつたけど、魚は大きかったです。

ただ、ゴマモンガラも大きかったのはちょっと怖かったです。船が小さいので酔いが心配でしたが、3日目以降は大丈夫でした。酔ってしまったときは、ボートスタッフのみんながとても良くしてくれてありがたかったです。想定していたよりも快適だったので、良かったです。



一回のトリップで
ジンベイイルカ!

長田 良子
(ながた よしこ) さん

私にとって、初めての経験でした。一回のトリップでジンベイイルカやイルカを見れたので、嬉しい……、幸せでした。スタッフがフレンドリーで良く気が効き、またよく働くので快適に過ごせました。今回は少人数のクルーズで、ひとりで参加している人がほとんどだったのでみんな直ぐに仲良くなれたのが良かったです。世界遺産に登録されているサンゴの海は素晴らしくキレイで感動しました。また機会があれば、この海を訪れたと思います。

(五十音順)

トゥバタハクルーズに参加した ゲストの皆さんの声です・その2 (タルシー号・4月30日~5月7日2005年)



幸せものの
ビデオでした

平田 昭彦
(ひらた あきひこ) さん

いや~実はビデオ撮影の海外デビューだったのですが、ジンベイザメは撮れるわ、ドルフィンも撮れるわ、で幸せもののビデオでした。サンゴの溢れるドロップオフに毎日、毎日、4本も5本も潜れて、とても楽しかったです。ドロップオフの終点で、ギンガメが滝のように落ちてきて広がる姿は、水深なんて忘れるくらい綺麗でした。みんないい人ばかりで楽しいクルーズ。楽しい時間はあっという間でした。



下船直前にお世話になったスタッフとゲストのみなで記念撮影



鍵井 靖章
水中カメラマン

トゥバタハ リーフの魅力

雑誌やインターネットでこれほどたくさんの情報が簡単に手に入る時代になり、アジア周辺の海が当たり前ようになってきました。あまり誰も行ったことがない海を経験しようとするれば、遠くの秘境を選ばないかぎり、いつも同じラインナップが挙がってきます。そんな中で、トゥバタハリーフはやはり注目される海のひとつだと思います。ホームグラウンドの魅力を持つソロアンやボホールのようなダイビングディステーションをもつフィリピンにありながら、冒険心をくすぐられる少し遠い存在の海。確かに港から出航して、トゥバタハリーフまではクルーズ船で10時間ほど掛かります。遠くに行かないと、良い海がないわけではないのですが、広大なスル海のド真ん中に位置し、数千メートルにまで落ち込むドロップオフに囲まれ、常に豊饒な潮流で洗われている海域は私たちダイバーにとっても興味深いエリアだと思います。そして、1年間で潜れる期間が約3ヶ月間だけという限定の海域でもあります。そのため確かに、他のエリアに比べて情報は少ないですが、私たちが潜ることのできる3ヶ月間以外は、誰の手にも触れられていない魚たちの聖域(サンクチュアリ)になります。様々な魚たちが自由に泳ぐ姿を想像しただけでも、私はそこに潜りたい気持ちでいっぱいになります(それが、邪魔な存在なのですが……)

世界遺産にも登録されているほどの海域ですから、サンゴ礁はとても豊かです。本文でも書きましたが、もちろん、全てのエリアが全く壊れていないわけでもありませんが、特に浅場のサンゴ礁は美しい箇所が多かったです。ダイビングの最後の安全停止の時に少しリーフの内側に遊びに行ってみるのもお勧めです。乗船したクルーズのガイドさんもそうだったのですが、他のクルーズ船のゲストが作成したレポートも見限り、トゥバタハ・クルーズのガイドさんはヨーロッパ的なガイドングで、道案内の役目のようです。エアーの残圧や水深などはゲスト各自で管理することが大切になります。この時期、多くのクルーズ船が、期待に胸を膨らませたダイバーを乗せ、トゥバタハリーフに出航します。2005年度の取材で、私はジンベイザメに出会うなどの幸運に恵まれました。2006年のGWにも、再びトゥバタハリーフに向う予定です。どのような出会いがあるのか、いまから楽しみです!

鍵井靖章のトゥバタハリーフ

クルーズ日誌(4月30日~5月7日2005年)
<http://kagii.jp/cruise/tubbataha/> に掲載中。



Surprise!!
TUBBATAHA Dive Cruise

トゥバタハクルーズ&トゥバタハリーフについて

トゥバタハリーフ(トゥバタハ岩礁海洋公園)について

フィリピンとマレーシアに囲まれた広大な海域・トゥバタハリーフは約24万2千平方キロメートルに及ぶ「スル海」の真ん中にある。

トゥバタハリーフの正式名称はトゥバタハ岩礁海洋公園。フィリピン諸島の南西にあるパラワン島の東の岩礁と珊瑚礁を保護する目的で設置された海中公園。2つの環礁があり、その間は約8kmの海峡がある。北側のノース・トゥバタハは全長約16km、幅約5km、南側のサウス・トゥバタハは全長約5km、幅3km。2つの環礁を合わせた総面積は332平方kmでその規模は、東南アジア最大ともいわれる。トゥバタハクルーズで潜るエリアはその2つの環礁とノーストゥバタハの北西23kmに位置するリーフ・Jessie beazley Reef(ジェシービーズリー リーフ)の3つのエリア。リーフのほとんどは見事なサンゴ礁で覆

れていて、リーフエッジの先は数千メートルまで落ち込むドロップオフである。

そして、少なくとも446種ものサンゴ、約400種の魚類。イルカ、クジラなどの海洋哺乳類が9種、ウミガメ2種(アオウミガメ、タイマイ)、海藻、藻類約80種が確認され、陸上でも15種もの海鳥が確認されている。豊かなその生態系、ひとつの地域に生息する海洋生物群として世界最大級の規模、地域的な生物の多様性などが評価され、1993年にフィリピンで最初のユネスコの世界遺産(自然遺産)に登録されている。ダイビングで潜れる期間は、季節風の関係で1年で3ヶ月間だけ。

アクセス・インフォメーション

フィリピンのマニラ空港を経緯してパラワン島のプエルトプリンセサへアクセスする。空港からプエルトプリンセサの港までは車で約20分。各クルーズ船は出航日が決まっているので、それに合わせてプエルトプリンセサに到着する日程を選択することになる。マニラ～プエルトプリンセサのフライトは翌日のになるので、マニラで1泊することになる。パラワン島から180kmの沖合いで港からトゥバタハリーフまで船で約10～12時間。

トゥバタハクルーズの1日のスケジュール例

起床	5:30～6:00
～7:00までに1本目のダイビング	
朝食	
9:00～2本目のダイビング	
昼食	
13:00～14:00の間に3本目のダイビングにエントリー	
16:00～17:00の間に4本目のダイビングにエントリー	
夕食は19:00～	
ナイトダイビングは21:00～(毎日の開催ではない)	

※ 海洋状況やダイブポイントによって多少の変更はある。

ダイブスタイル

本船から小型のダイビング用スピードボートに乗り移り、ダイビングに出発する。ガイド同行のグループでダイビング。ダイブタイムは約50～60分、若しくは残圧が30barになるまで。

トゥバタハクルーズの詳しいインフォメーションについて

「潜り方」について <http://www.wtp.co.jp/dive-safari/sulu/dive.html>
ルート&ポイントについて <http://www.wtp.co.jp/dive-safari/sulu/point.html>
使用ポートについて <http://www.wtp.co.jp/dive-safari/sulu/boat.html>
よくある質問について <http://www.wtp.co.jp/dive-safari/sulu/faq.html>

SP Tour Information!

世界遺産・限定ダイブクルーズ 2006年ゴールデンウィーク

トゥバタハダイブクルーズのお問い合わせ&お申し込みは……
ワールドツアープランナーズまでどうぞ!

➡ **info@wtp.co.jp**
http://www.wtp.co.jp

● 東京、神奈川、千葉、埼玉からは TEL03-5425-7711
● 上記以外からは、フリーダイヤル0120-537355
営業時間: 10:00～18:30(平日)、10:00～15:00(土曜日)